

柏崎刈羽原子力発電所 7号機における
運転上の制限からの逸脱に関する調査結果について

平成 16 年 2 月 13 日
東京電力株式会社
柏崎刈羽原子力発電所

当所 7号機（改良型沸騰水型、定格出力 135 万 6 千キロワット）は、平成 15 年 9 月 23 日より、第 5 回定期検査を実施しており、平成 16 年 1 月 19 日より調整運転中ですが、2 月 3 日、非常用炉心冷却系の 1 つである原子炉隔離時冷却系^{注 1}の機能検査を受検していたところ、原子炉隔離時冷却系タービン蒸気加減弁^{注 2}の不具合が確認され、原子炉隔離時冷却系の動作が正常であると確認出来ないことから、保安規定に定める運転上の制限^{注 3}を満足していないものと判断し、その後調査を行ってまいりました。
（2 月 3 日お知らせ済み）

調査の結果、原子炉隔離時冷却系タービン蒸気加減弁の駆動装置の内部へゴミが取り込まれるのを防ぐダストシール^{注 4}が劣化していたことから、駆動装置内部にゴミが取り込まれ、当該弁の作動を繰り返しているうちに駆動装置にゴミがかみ込んでしまい、当該弁が一時的に動かなくなったものと推定いたしました。

このため、当該駆動装置の取替を実施し、本日、運転上の制限からの逸脱から復帰いたしました。今後準備が整い次第、中断しておりました原子炉隔離時冷却系の機能検査を受検することといたします。

なお、当該駆動装置については、分解点検の間隔を短縮し、原子炉隔離時冷却系の本格点検にあわせて実施することといたします。また、駆動装置内部へゴミが取り込まれる可能性のある箇所に防塵用のカバーを設置いたします。

以 上

注 1 : 原子炉隔離時冷却系

非常用炉心冷却系の一つで、原子炉水位が異常に低下した場合に、原子炉内に水を補給するための設備です。

注 2 : 原子炉隔離時冷却系タービン蒸気加減弁

原子炉隔離時冷却系は、圧力容器内の蒸気によりタービンを駆動し、原子炉内へ水を補給します。

原子炉隔離時冷却系タービンに入る蒸気の量を加減する弁で、この弁の開閉量によりタービン速度が増減します。

注 3 : 運転上の制限

保安規定では原子炉の運転に関し、「運転上の制限」や「運転上の制限を満足しない場合に要求される措置」等が定められており、運転上の制限を満足しない場合には、要求される措置に基づき対応することになっています。

注 4 : ダストシール

ゴミ等が、ピストンロッドに付着して駆動装置内部に入り込まないように密閉するためのものです。

7号機原子炉隔離時冷却系タービン蒸気加減弁概略系統図

